

(様式第 10)

産医大発第 150204号
平成 27 年 10月 1 日

厚生労働大臣 殿

学校法人産業医科大学
開設者名 理事長 森山 寛 (印)

産業医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 26 年度の業務
に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒807-8556 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1 - 1
氏 名	学校法人 産業医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には
法人の名称を記入すること。

2 名 称

産業医科大学病院

3 所在の場所

〒807-8556 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1 - 1	電話(093) 603 - 1611
------------------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

☒ 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
☐ 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度か つ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科						有 ・ 無	
内科と組み合わせた診療科名等							
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
診療実績							

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に
ついて記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記
入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で
医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科							☒ 有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名							
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
診療実績							

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

☒ 1精神科	☒ 2小児科	☒ 3整形外科	☒ 4脳神経外科	☒ 5皮膚科	☒ 6泌尿器科	☒ 7産婦人科
8産科	9婦人科	☒ 10眼科	☒ 11耳鼻咽喉科	☒ 12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		☒ 15麻酔科	☒ 16救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科							☒ 有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名							
1 歯科・口腔外科	2	3	4	5	6	7	
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 神経内科	2 形成外科	3 心臓血管外科	4 リハビリテーション科	5 呼吸器内科
6 病理診断科	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21				

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
40床	床	床	床	638床	678床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 27 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	400人	1.8 人	401.8人	看 護 補 助 者	70人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	9人	0.4人	9.4人	理 学 療 法 士	15人	臨床検査技師	47人
薬 剤 師	41人	0人	41人	作 業 療 法 士	6人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	3人	そ の 他	0人
助 産 師	27人	0人	27人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	721人	15.1人	736.1人	臨床工学技士	14人	医療社会事業従事者	8人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	5人
歯科衛生士	1人	0人	1人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	81人
管理栄養士	4人	0.8人	4.8人	診療放射線技師	38人	そ の 他 の 職 員	15人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 27 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	22 人	眼 科 専 門 医	7 人
外 科 専 門 医	23 人	耳鼻咽喉科専門医	7 人
精 神 科 専 門 医	5 人	放射線科専門医	11 人
小 児 科 専 門 医	14 人	脳神経外科専門医	8 人
皮 膚 科 専 門 医	5 人	整形外科専門医	10 人
泌尿器科専門医	7 人	麻 酔 科 専 門 医	6 人
産婦人科専門医	13 人	救 急 科 専 門 医	6 人
		合 計	144 人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	563.6人	5.7 人	569.3人
1 日当たり平均外来患者数	1531.2人	67.5人	1598.7人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数			1152.7剤
必要医師数			146.6125人
必要歯科医師数			2人
必要薬剤師数			19人
必要(准)看護師数			339人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日

で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備	概要
集中治療室	268.44 m ²	鉄筋コン クリート	病床数	10床
			人工呼吸装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	104.76m ² 7台	病床数 10床
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	16.96 m ²	
化学検査室	175.41m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 生化学自動分析装置、冷蔵庫、冷凍庫、他	
細菌検査室	66.41m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 自動細菌同定感受性検査装置、微生物検査機器、測定システム、他	
病理検査室	71.69m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) バーチャルスライド作成機、免疫染色装置密閉式、自動固定包埋装置、他	
病理解剖室	58.53m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 特殊解剖台、排水殺菌システム	
研究室	2011.5 m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 実験台、冷蔵庫、冷凍庫、パソコン、測定・分析装置、他	
講義室	1203.51m ²	鉄筋コン クリート	室数	10室
図書室	2,480m ²	鉄筋コン クリート	室数	1室
			蔵書数	121,304 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	85.1 %	逆紹介率	51.9 %
算出根拠	A: 紹介患者の数		15,029人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,390人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,003人
	D: 初診の患者の数		20,017人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
・ 単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断(リアルタイムPCR法)	0人
・ 硬膜外自家血注入療法	4人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
・術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法原発性乳がん	1人
・ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	95人	・膿疱性乾癬	10人
・多発性硬化症	60人	・広範脊柱管狭窄症	12人
・重症筋無力症	79人	・原発性胆汁性肝硬変	47人
・全身性エリテマトーデス	318人	・重症急性膵炎	26人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	25人
・再生不良性貧血	34人	・混合性結合組織病	58人
・サルコイドーシス	86人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	14人	・特発性間質性肺炎	20人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	238人	・網膜色素変性症	25人
・特発性血小板減少性紫斑病	42人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	48人	・肺動脈性肺高血圧症	3人
・潰瘍性大腸炎	126人	・神経線維腫症	7人
・大動脈炎症候群	15人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	4人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	25人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4人
・脊髄小脳変性症	41人	・ライソゾーム病	4人
・クローン病	67人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	84人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	195人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	10人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	8人
・後縦靱帯骨化症	62人	・肥大型心筋症	1人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	32人	・ミトコンドリア病	2人
・ウェゲナー肉芽腫症	18人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	23人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	14人	・黄色靱帯骨化症	8人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	74人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1)	・データ提出加算2
・特定機能病院入院基本料(精神病棟10対1)	・特定集中治療室管理料1(小児加算含)
・臨床研修病院入院診療加算(医科)	・総合周産期特定集中治療室管理料
・臨床研修病院入院診療加算(歯科)	・新生児治療回復室入院医療管理料
・救急医療管理加算	・小児入院医療管理料2
・超急性期脳卒中加算	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・歯科外来診療環境体制加算
・診療録管理体制加算1	・歯科診療特別対応連携加算
・急性期看護補助体制加算25対1(看護補助者5割未満)	・
・看護職員夜間配置加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・救急搬送患者地域連携受入加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・病棟薬剤業務実施加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・植込型徐細動器移行器加算	・遺伝カウンセリング加算
・高度難聴指導管理料	・植込型心電図検査
・糖尿病合併症管理料	・時間内歩行試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料1	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料2	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん患者指導管理料3	・神経学的検査
・外来緩和ケア管理料	・補聴器適合検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後の場合)	・ロービジョン検査判断料
・糖尿病透析予防指導管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・院内トリアージ実施料	・内服・点滴誘発試験
・夜間休日救急搬送医学管理料	・センチネルリンパ節生検(単独法・併用法)
・外来放射線照射診療料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・ニコチン依存管理料	・画像診断管理加算2(画像診断管理加算1を含む)
・地域連携診療計画管理料(脳卒中・大腿骨頸部骨折)	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・がん治療連携計画策定料	・CT撮影及びMRI撮影
・がん治療連携管理料	・冠動脈CT撮影加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・心臓MRI撮影加算
・薬剤管理指導料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料1	・外来化学療法加算1
・医療機器安全管理料2	・無菌製剤処理科
・医療機器安全管理料(歯科)	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)
・持続血糖測定器加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(ジェノタイプ判定)	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・がん患者リハビリテーション料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・認知療法・認知行動療法1	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料	・経皮的動脈遮断術
・医療保護入院等診療料	・ダメージコントロール手術
・透析水質確保加算2	・腹腔鏡下肝切除術
・一酸化窒素吸入療法	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・CAD/CAM冠	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・歯科技工加算	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・膀胱水圧拡張術
・組織拡張器による再建手術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・骨移植術(軟骨移植術を含む)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・脳刺激装置植込術、頭蓋内電極植込術、脳刺激装置交換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・脊髄刺激装置植込術、脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術
・網膜再建術	・胃瘻造設術
・羊膜移植術	・輸血管理料1
・緑内障手術	・輸血適正使用加算
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型	・自己生体組織接着剤作成術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1・2	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・経皮的冠動脈形成術	・歯周組織再生誘導手術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・広範顎骨支持型装置埋込手術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・麻酔管理料(Ⅰ)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(電池交換を含む)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・放射線治療専任加算
・植込型除細動器移植術又は植込型除細動器交換術	・外来放射線治療加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 難治性眼疾患に対する羊膜移植術	・
・ 腹腔鏡下子宮体がん根治手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 18 例 / 剖検率 7.40%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
IgG4関連疾患の病院病態解明と新規治療法確立に関する研究	田中 良哉	第1内科学	1,200,000	補 委 厚生労働省
関節リウマチの「ドラッグホリデー」と関節破壊「ゼロ」を目指す治療法の確立に関する研究	田中 良哉	第1内科学	24,000,000	補 委 厚生労働省
自己免疫疾患のイノベーション研究	田中 良哉	第1内科学	1,000,000	補 委 厚生労働省
特発性大腿骨頭壊死症の治療法確立と革新的予防法開発にむけた全国学際研究	田中 良哉	第1内科学	1,000,000	補 委 厚生労働省
臨床的、機能的、職業的寛解を目指した関節リウマチの治療アルゴリズムの確立	名和田 雅夫	第1内科学	1,200,000	補 委 日本学術振興会
濾胞性ヘルパーT細胞の多様性と自己免疫病態への関与: SLE新規治療戦略の創出	中山田 真吾	第1内科学	1,900,000	補 委 日本学術振興会
IgG4関連疾患の診断基準並びに治療指針の確立を目指した研究	田中 良哉	第1内科学	500,000	補 委 厚生労働省科学研究費
難治性SLEに対するボルテゾミブ療法の有効性・安全性検証試験	田中 良哉	第1内科学	2,000,000	補 委 厚生労働省科学研究費
免疫疾患に対する有効な治療法の確立に関する研究	田中 良哉	第1内科学	1,000,000	補 委 厚生労働省科学研究費
中性脂肪蓄積心筋血管症に対する中鎖脂肪酸を含有する医薬品の開発	山田 壮亮	第2病理学	1,000,000	補 委 厚生労働省科学研究費
手技の容易化・安全化を実現する軟性内視鏡操作支援ロボットの開発	久米 恵一郎	第3内科学	1,537,560	補 委 日本学術振興会
網羅的細菌叢解析を用いた誤嚥性肺炎における原因菌のエビデンスの構築	迎 寛	呼吸器内科学	1,372,088	補 委 日本学術振興会
視神経脊髄炎の再発に対するリツキシマブの有用性を検証する第Ⅱ/Ⅲ相多施設共同プラセボ対照無作為化試験	岡田 和将	神経内科学	3,500,000	補 委 厚生労働省科学研究費
神経変性疾患における病因蛋白質の選択的分解の促進による治療法の開発	足立 弘明	神経内科学	6,297,688	補 委 日本学術振興会
BDNF,proBDNF血中動態に基づくうつ病再発予測	吉村 玲児	精神医学	126,856	補 委 日本学術振興会

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
DNAメチル化修飾に着目したうつ病のマーカー作成－双極、単極、治療抵抗性うつ病の鑑別を目指して－	中村 純	精神医学	1,100,000	補 委 厚生労働省科学研究費
うつ病の生化学的バイオマーカー探索	吉村 玲児	精神医学	1,000,000	補 委 国立精神・神経医療研究センター
統合失調症の認知および社会機能障害の神経生物学的マーカー開発についての研究	吉村 玲児	精神医学	1,500,000	補 委 厚生労働省
PFAPA症候群の発熱発作予防におけるシメチジンの作用機序の解明	楠原 浩一	小児科学	1,000,000	補 委 日本学術振興会
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	楠原 浩一	小児科学	800,000	補 委 厚生労働省科学研究費
免疫低下を認める小児に対する肺炎球菌ワクチンおよびヒブワクチンの有効性の検討	保科 隆之	小児科学	1,469,617	補 委 日本学術振興会
ランゲルハンス細胞組織球症の病態解明と選択的治療へ向けた基礎的研究	本田 裕子	小児科学	114,792	補 委 日本学術振興会
小児生活習慣病に対する効果的運動介入方法の構築:指標としてのマイオカイン系の解明	山本 幸代	小児科学	1,946,007	補 委 日本学術振興会
EMTを起こした肺癌循環腫瘍細胞のマイクロ流体チップシステムを用いた検出法の開発	近石 泰弘	第2外科学	901,704	補 委 日本学術振興会
早期がん診断マルチマーカーのプラットフォームとしての電気化学的バイオセンサの開発	田中 文啓	第2外科学	3,960,000	補 委 九州工業大学(JST)
マイクロ流体チップシステムによる肺癌での循環腫瘍細胞の高感度検出法の開発	岡 壮一	第2外科学	1,302,429	補 委 日本学術振興会
悪性胸膜中皮腫における末梢血液中バイオマーカーの開発	田中 文啓	第2外科学	4,700,000	補 委 日本学術振興会
肺癌における循環腫瘍細胞の高感度検出法の確立	宗 知子	第2外科学	991,622	補 委 日本学術振興会
蛍光試薬5-アミノレブリン酸の放射線増感作用を悪性脳腫瘍治療へ応用する	山本 淳考	脳神経外科学	800,000	補 委 日本学術振興会
グリオーマに対する5-アミノレブリン酸併用放射線照射における免疫機序の解明	中野 良昭	脳神経外科学	700,000	補 委 日本学術振興会

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高リスク作業の支援に対応可能な高信頼拡張現実感技術の開発	中村 英一郎	整形外科科学	1,500,000	補委 日本学術振興会
遺伝子改変動物を用いた疼痛ストレスにおける脳内生理活性物質の分子基盤の解明	川崎 展	整形外科科学	1,400,000	補委 日本学術振興会
加齢に伴う脊椎変性メカニズムの分子生物学的解明	中村 英一郎	整形外科科学	1,700,000	補委 日本学術振興会
マイコプラズマ・ジェニタリウム尿道炎の抗菌薬治療に関する検討	濱砂 良一	泌尿器科学	419,930	補委 日本学術振興会
遺伝子変異の機能評価による家族性滲出性硝子体網膜症の多様性の解析	近藤 寛之	眼科学	1,387,568	補委 日本学術振興会
レム関連睡眠時無呼吸の病態解明と治療応用	北村 拓朗	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	771,632	補委 日本学術振興会
慢性副鼻腔炎における鼻内細菌叢の評価	寶地 信介	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,086,046	補委 日本学術振興会
構造的転写共役因子を分子標的とした子宮体癌治療と薬剤耐性機構の解明	蜂須賀 徹	産科婦人科学	1,200,000	補委 日本学術振興会
CT経時差分画像を用いた胸部診断支援システムに関する研究	青木 隆敏	放射線科学	900,000	補委 日本学術振興会
うつ病患者の遺伝子多型が脳微細構造に及ぼす影響をMR統計画像解析を用いて評価する	興梠 征典	放射線科学	700,000	補委 日本学術振興会
多発性硬化症の通常のMRで検出困難な脳白質傷害の評価:位相差強調画像に関する研究	掛田 伸吾	放射線科学	1,987,353	補委 日本学術振興会
外科侵襲による抗菌ペプチド産生変化と白血球モジュレーションによる制御法の開発	川崎 貴士	麻酔科学	1,916,014	補委 日本学術振興会
視床下部ミクログリアに焦点をあてた熱射病の病態生理解明と治療法の開発	川崎 知佳	麻酔科学	2,027,733	補委 日本学術振興会
神経障害性疼痛治療薬の開発を目指した内因性カンナビノイドの疼痛抑制機序の全貌解明	堀下 貴文	麻酔科学	1,302,988	補委 日本学術振興会
神経障害痛モデルでの不安・うつ症状と記憶・学習能力に対するポリフェノールの影響	寺田 忠徳	麻酔科学	224,791	補委 日本学術振興会

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
選択的Nav1.3阻害薬の開発を目指した、電位依存性Naチャネルの抑制機序解析	佐多 竹良	麻酔科学	1,191,658	補委 日本学術振興会
非能動型新規上肢リハビリ訓練ロボット及びその各種リハビリ手法との融合に関する研究	和田 太	リハビリテーション医学	30,000	補委 日本学術振興会
ポリオ罹患患者のF波波形解析によるポリオ後症候群危険予測指標作成と臨床応用	蜂須賀 明子	リハビリテーション医学	1,247,781	補委 日本学術振興会
高次脳機能障害者に対する経頭蓋直流電気刺激の自動車運転能力への効果	加藤 徳明	リハビリテーション医学	626,167	補委 日本学術振興会
上肢訓練ロボットへの振動刺激による運動錯覚の応用	和田 太	リハビリテーション医学	1,165,666	補委 日本学術振興会
関節リウマチにおける関節破壊を予測する新規マルチバイオマーカー創出に関する研究	平田 信太郎	病理・臨床検査・輸血部	1,200,000	補委 日本学術振興会
PHSRNペプチドによる腹膜再生機構の薬理的説明と臨床応用	田村 雅仁	腎センター	1,529,475	補委 日本学術振興会
強毒株クロストリディウム・デフィシル菌アウトブレイク防止体制構築についての研究	芳川 一郎	内視鏡部	1,273,542	補委 日本学術振興会
最初期遺伝子発現を可視化した遺伝子改変動物を用いた難治性疼痛機構の解明	鈴木 仁士	救急医学	1,699,808	補委 日本学術振興会
肺線維症診断における気管支肺胞洗浄液の電子顕微鏡下粉じん解析の有用性	城戸 貴志	救急医学	1,311,447	補委 日本学術振興会
HMGB-1が視床下部-下垂体においてバソプレシン産生・分泌におよぼす影響の解明	大坪 広樹	救急医学	1,472,508	補委 日本学術振興会

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計11 計56

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Torimoto K	第1内科	Glucose variability before and after treatment of a patient with Graves' disease complicated by diabetes mellitus: Assessment by continuous glucose monitoring.	Endocrine Journal. 61(4):321-328, 2014
2	Tanaka Y	第1内科	Effect of interleukin-6 receptor inhibitor, tocilizumab, in preventing joint destruction in patients with rheumatoid arthritis showing inadequate response to TNF inhibitors.	Mod Rheumatol. 24(3):399-404, 2014
3	Miyagawa I	第1内科	Study on the safety and efficacy of tocilizumab, an anti-IL-6 receptor antibody, in patients with rheumatoid arthritis complicated with AA amyloidosis.	Mod Rheumatol. 24(3):405-9, 2014
4	Sonomoto K	第1内科	Effects of tofacitinib on lymphocytes in rheumatoid arthritis: relation to efficacy and infectious adverse events.	Rheumatology (Oxford). 53(5):914-8, 2014
5	Torimoto K	第1内科	Low levels of 1,5-anhydro-D-glucitol are associated with vascular endothelial dysfunction in type 2 diabetes.	Cardiovasc Diabetol. 13:99, 2014
6	Yamamoto S	第1内科	Type 2 diabetes mellitus complicated by hypertension in Japanese patients: switching treatment from high-dose angiotensin II receptor blockers to losartan plus hydrochlorothiazide.	Intern Med. 53(12):1283-9, 2014
7	Azuma K	第1内科	FGFR1 activation is an escape mechanism in human lung cancer cells resistant to afatinib, a pan-EGFR family kinase inhibitor.	Oncotarget. 5(15):5908-19, 2014
8	Tanaka Y	第1内科	IL-6 targeting compared to TNF targeting in rheumatoid arthritis: studies of olokizumab, sarilumab and sirukumab.	Ann Rheum Dis. 73(9):1595-7, 2014
9	Tanaka Y	第1内科	Efficacy and safety of abatacept in routine care of patients with rheumatoid arthritis: Oencia(R) as Biological Intensive Treatment for RA (ORBIT) study.	Mod Rheumatol. 24(5):754-62, 2014
10	Kondo M	第1内科	Acquiring chondrocyte phenotype from human mesenchymal stem cells under inflammatory conditions.	Int J Mol Sci. 15(11):21270-85, 2014
11	Tanaka Y	第1内科	Intensive intervention can lead to a treatment holiday from biological DMARDs in patients with rheumatoid arthritis.	Drugs. 74(18):2129-39, 2014
12	Mori H	第1内科	Case of parathyroid carcinoma with a highly aggressive clinical course.	J UOEH. 36(4):243-9, 2014
13	Kurozumi A	第1内科	Induction of thyroid remission using rituximab in a patient with type 3 autoimmune polyglandular syndrome including Graves' disease and type 1 diabetes mellitus: a case report.	Endocr J. 62(1):69-75, 2015
14	Tanaka Y	第1内科	Discontinuation of adalimumab after achieving remission in patients with established rheumatoid arthritis: 1-year outcome of the HONOR study.	Ann Rheum Dis. 74(2):389-95, 2015
15	Iwata S	第1内科	Activation of Syk in peripheral blood B cells in patients with rheumatoid arthritis: a potential target for abatacept therapy.	Arthritis Rheumatol. 67(1):63-73, 2015
16	Hirata S	第1内科	Combination therapy for early rheumatoid arthritis: a treatment holiday perspective.	Expert Rev Clin Pharmacol. 8(1):115-22, 2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
17	Nakayamada S	第1内科	Relevance of lymphocyte subsets to B cell-targeted therapy in systemic lupus erythematosus.	Int J Rheum Dis. 18(2):208-18, 2015
18	Tanaka Y	第1内科	Response to Dr Minota's Letter to the Editor of Modern Rheumatology Regarding a Study of Tofacitinib in Japanese Patients with Rheumatoid Arthritis.	Mod Rheumatol. 12:1-2, 2015
19	Ishizaki J	第1内科	Low complements and high titre of anti-Sm antibody as predictors of histopathologically proven silent lupus nephritis without abnormal urinalysis in patients with systemic lupus erythematosus.	Rheumatology (Oxford). 54(3):405-12, 2015
20	Kuma A	第2内科	Role of WNT10A-expressing kidney fibroblasts in acute interstitial nephritis.	PLoS One. 9(7):e103240, 2014
21	Kuwaki H	第2内科	Redefining diastolic dysfunction grading: combination of $E/A \geq 0.75$ and deceleration time >140 ms and $E/\epsilon' \leq 10$.	JACC Cardiovasc Imaging. 7(8):749-58, 2014
22	Iwataki M	第2内科	Calcific extension towards the mitral valve causes non-rheumatic mitral stenosis in degenerative aortic stenosis: real-time 3D transoesophageal echocardiography study.	Open Heart. 1(1):e000136, 2014
23	Watabe T	第2内科	Atrial pacing site and atrioventricular conduction in patients paced for sinus node disease.	J Cardiovasc Electrophysiol. 25(11):1224-31, 2014
24	Oginosawa Y	第2内科	Pacing and sensing interference by air bubble surrounding the non-extended helix of intact active fixation lead.	Circ J. 78(12):2862-6, 2014
25	Iwataki M	第2内科	Different characteristics of heart failure due to pump failure and bradyarrhythmia.	J Echocardiogr. 13(1):27-34, 2015
26	Kuma A	第2内科	A novel UMOD gene mutation associated with uromodulin-associated kidney disease in a young woman with moderate kidney dysfunction.	Intern Med. 54(6):631-5, 2015
27	Nagata Y	第2内科	Prognostic value of LV deformation parameters using 2D and 3D speckle-tracking echocardiography in asymptomatic patients with severe aortic stenosis and preserved LV ejection fraction.	JACC Cardiovasc Imaging. 8(3):235-45, 2015
28	Kume K	第3内科	Rectal perforation caused by mesalazine enema in a patient with ulcerative colitis.	Endoscopy. 46 Suppl 1 UCTN:E190, 2014
29	Kume K	第3内科	Endoscopic measurement of polyp size using a novel calibrated hood.	Gastroenterol Res Pract. 2014:714294, 2014
30	Oe S	第3内科	A case of idiopathic gastroesophageal submucosal hematoma and its disappearance observed by endoscopy.	J UOEH. 36(2):123-8, 2014
31	Kume K	第3内科	Endoscopic therapy for early gastric cancer: standard techniques and recent advances in ESD.	World J Gastroenterol. 20(21):6425-32, 2014
32	Kume K	第3内科	Endoscopic resection of a giant pedunculated polyp using scissor-type forceps.	Endoscopy. 46 Suppl 1 UCTN:E290-1, 2014
33	Taguchi M	第3内科	Body mass index influences the outcome of acute pancreatitis: an analysis based on the Japanese administrative database.	Pancreas. 43(6):863-6, 2014
34	Oe S	第3内科	Refractory primary hepatic actinomycosis with direct infiltration to the diaphragm and thorax: the usefulness of contrast-enhanced ultrasonography.	Intern Med. 53(18):2073-8, 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
35	Honma Y	第3内科	New therapeutic strategy for hepatocellular carcinoma by molecular targeting agents via inhibition of cellular stress defense mechanisms.	J UOEH. 36(4):229-35, 2014
36	Shibata M	第3内科	Hepatic peribiliary cysts with rapidly progressive refractory obstructive jaundice and esophageal varices.	Intern Med. 54(4):389-93, 2015
37	Miyagawa K	第3内科	Methotrexate-related primary hepatic lymphoma in a patient with rheumatoid arthritis.	Intern Med. 54(4):401-5, 2015
38	Oda K	呼吸器内科	Relationship between the ratios of CD4/CD8 T-lymphocytes in the bronchoalveolar lavage fluid and lymph nodes in patients with sarcoidosis.	Respir Investig. 52(3):179-83, 2014
39	Toyota T	神経内科	Limbic encephalitis associated with anti-voltage-gated potassium channel complex antibodies as a cause of adult-onset mesial temporal lobe epilepsy.	J UOEH. 36(2):129-33, 2014
40	Mukae H	呼吸器内科	Efficacy and safety of levofloxacin in patients with bacterial pneumonia evaluated according to the new "Clinical Evaluation Methods for New Antimicrobial Agents to Treat Respiratory Infections (Second Version)".	J Infect Chemother. 20(7):417-22, 2014
41	Noguchi S	呼吸器内科	Nitric oxide exerts protective effects against bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice.	Respir Res. 15:92, 2014
42	Yatera K	呼吸器内科	Real-world effects of two inhaled corticosteroid/long-acting β 2-agonist combinations in the treatment of asthma.	J Asthma. 51(7):762-8, 2014
43	Kawanami T	呼吸器内科	Efficacy and safety of meropenem (3 g daily) in Japanese patients with refractory respiratory infections.	J Infect Chemother. 20(12):768-73, 2014
44	Ishimoto Y	呼吸器内科	A Case of Immunoglobulin G4(IgG4)-Related Disease Diagnosed by Transbronchial Lung Biopsy and Endobronchial Ultrasound-Guided Transbronchial Needle Aspiration	J UOEH. 36(4):237-242, 2014
45	Hanaka T	呼吸器内科	Primary lung sebaceous carcinoma.	Intern Med. 54(3):351-2, 2015
46	Mukae H	呼吸器内科	Evaluation of a rapid immunochromatographic ODK0501 assay for detecting Streptococcus pneumoniae antigens in the sputum of pneumonia patients with positive S. pneumoniae urinary antigens.	J Infect Chemother. 21(3):176-81, 2015
47	Yatera K	呼吸器内科	A rare case of paragonimiasis miyazakii with lung involvement diagnosed 7years after infection: A case report and literature review.	Parasitol Int. 64(5):274-280, 2015
48	Atake K	神経・精神科	Duloxetine, a Selective Noradrenaline Reuptake Inhibitor, Increased Plasma Levels of 3-Methoxy-4-hydroxyphenylglycol but Not Homovanillic Acid in Patients with Major Depressive Disorder.	Clin Psychopharmacol Neurosci. 12(1):37-40, 2014
49	Hori H	神経・精神科	Hiccups associated with switching from olanzapine to aripiprazole in a patient with paranoid schizophrenia.	Clin Neuropharmacol. 37(3):88-9, 2014
50	Yamada K	神経・精神科	Effect of COMT Val108/158Met genotype on risk for polydipsia in chronic patients with schizophrenia.	Neuromolecular Med. 16(2):398-404, 2014
51	Hayashi K	神経・精神科	COMT Val158Met, but not BDNF Val66Met, is associated with white matter abnormalities of the temporal lobe in patients with first-episode, treatment-naïve major depressive disorder: a diffusion tensor imaging study.	Neuropsychiatr Dis Treat. 10:1183-90, 2014
52	Yoshimura R	神経・精神科	Comparison of lithium, aripiprazole and olanzapine as augmentation to paroxetine for inpatients with major depressive disorder.	Ther Adv Psychopharmacol. 4(3):123-9, 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
53	Yoshimura R	神経・精神科	Serum proBDNF/BDNF and response to fluvoxamine in drug-naïve first-episode major depressive disorder patients.	Ann Gen Psychiatry. 13:19, 2014
54	Egashira K	神経・精神科	Different and shared brain volume abnormalities in late- and early-onset schizophrenia.	Neuropsychobiology. 70(3):142-51, 2014
55	Hori H	神経・精神科	Relationships between brain-derived neurotrophic factor, clinical symptoms, and decision-making in chronic schizophrenia: data from the Iowa Gambling Task.	Front Behav Neurosci. 8:417, 2014
56	Saito R	小児科	Tamoxifen treatment for pubertal gynecomastia in two siblings with partial androgen in sensitivity syndrome.	Horm Res Paediatr. 81(3): 211-6, 2014
57	Honda Y	小児科	Clinical characteristics of 15 children with juvenile myelomonocytic leukaemia who developed blast crisis: MDS Committee of Japanese Society of Paediatric Haematology/Oncology.	Br J Haematol. 165(5):682-7, 2014
58	Araki S	小児科	Circulating PCSK9 levels correlate with the serum LDL cholesterol level in newborn infants.	Early Hum Dev. 90(10):607-11, 2014
59	Hoshina T	小児科	The utility of biomarkers in differentiating bacterial from non-bacterial lower respiratory tract infection in hospitalized children: difference of the diagnostic performance between acute pneumonia and bronchitis.	J Infect Chemother. 20(10):616-20, 2014
60	Ogawa M	小児科	Hemophagocytic lymphohistiocytosis prior to the diagnosis of Kawasaki disease.	Indian Pediatr. 52(1):78, 2015
61	Yamauchi M	第1外科	Mitochondrial transcription factor a worsens the clinical course of patients with pancreatic cancer through inhibition of apoptosis of cancer cells.	Pancreas. 43(3):405-10, 2014
62	Sato N	第1外科	Rapid postoperative reduction in prognostic nutrition index is associated with the development of pancreatic fistula following distal pancreatectomy.	Pancreatol. 14(3):216-20, 2014
63	Shibao K	第1外科	A new oval multichannel port to facilitate reduced port distal gastrectomy.	Minim Invasive Ther Allied Technol. 24:1-6, 2014
64	Mori Y	第1外科	Rare combination of familial adenomatous polyposis and gallbladder polyps.	World J Gastroenterol. 20(46):17661-5, 2014
65	Nakayama Y	第1外科	Postoperative megarectum in an adult patient with imperforate anus and rectourethral fistula.	Case Rep Gastrointest Med. 2015:613926, 2015
66	Sato N	第1外科	Postoperative complications following single-incision laparoscopic cholecystectomy: a retrospective analysis in 360 consecutive patients.	Surg Endosc. 29(3):708-13, 2015
67	Uramoto H	第2外科	What is an appropriate material to use with a covering technique to prevent the recurrence of spontaneous pneumothorax?	J Cardiothorac Surg. 9:74, 2014
68	Uramoto H	第2外科	Salvage thoracic surgery in patients with primary lung cancer.	Lung Cancer. 84(2):151-5, 2014
69	Oka S	第2外科	Epidermal growth factor receptor-GEP100-Arf6 axis affects the prognosis of lung adenocarcinoma.	Oncology. 86(5-6):263-70, 2014
70	Uramoto H	第2外科	Recurrence after surgery in patients with NSCLC.	Transl Lung Cancer Res. 3(4):242-9, 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
71	Oka S	第2外科	Sclerosing mediastinitis of unknown origin: Report of a case.	Int J Surg Case Rep. 10:5-7, 2015
72	Eto M	心臓血管外科	Morphometric study of the human mitral annulus: Guide for mitral valve surgery.	Asian Cardiovascular & Thoracic Annals 22(7):787-793, 2014
73	Takahashi M	脳神経外科	Multiple Intracranial Nodules Associated with Rheumatoid Arthritis: Case Report	Neurologia medico-chirurgica. 54(4): 317-320, 2014
74	Yamamoto J	脳神経外科	Sarcomatoid malignant mesothelioma presenting with intramedullary spinal cord metastasis: a case report and literature review.	Global Spine J. 4(2):115-20, 2014
75	Yamamoto J	脳神経外科	Primary central nervous system lymphoma with preceding spontaneous pseudotumoral demyelination in an immunocompetent adult patient: A case report and literature review.	Oncol Lett. 7(6):1835-1838, 2014
76	Yamamoto J	脳神経外科	Management of wide openings in the ventricular system and exposure of large cerebral vessels in recurrent malignant gliomas with carmustine wafer implants.	Chirurgia. 27(6):357-361,2014
77	Kitagawa T	脳神経外科	5-Aminolevulinic acid strongly enhances delayed intracellular production of reactive oxygen species (ROS) generated by ionizing irradiation: quantitative analyses and visualization of intracellular ROS production in glioma cells in vitro.	Oncol Rep. 33(2):583-90, 2015
78	Yamamoto J	脳神経外科	5-aminolevulinic acid-induced protoporphyrin IX with multi-dose ionizing irradiation enhances host antitumor response and strongly inhibits tumor growth in experimental glioma in vivo.	Mol Med Rep. 11(3):1813-9, 2015
79	Sakai A	整形外科	Clinical efficacy and treatment persistence of monthly minodronate for osteoporotic patients unsatisfied with, and shifted from, daily or weekly bisphosphonates: the BP-MUSASHI study.	Osteoporos Int. 25(9):2245-53, 2014
80	Yamanaka Y	整形外科	How does ulnar shortening osteotomy influence morphologic changes in the triangular fibrocartilage complex?	Clin Orthop Relat Res. 472(11):3489-3494,2014
81	Yamanaka Y	整形外科	Reply to the letter to the editor: how does ulnar shortening osteotomy influence morphologic changes in the triangular fibrocartilage complex?	Clin Orthop Relat Res. 473(1):399-400, 2015
82	Sakai A	整形外科	Efficacy of combined treatment with alendronate (ALN) and eldelcalcitol, a new active vitamin D analog, compared to that of concomitant ALN, vitamin D plus calcium treatment in Japanese patients with primary osteoporosis.	Osteoporos Int. 26(3):1193-202, 2015
83	Watabe R	皮膚科	Leptin controls hair follicle cycling.	Exp Dermatol. 23(4):228-9, 2014
84	Sawada Y	皮膚科	Fatal case of toxic epidermal necrolysis caused by cefazopran and associated with psoriasis.	Acta Derm Venereol. 94(3):341-2, 2014
85	Hamada K	皮膚科	What determines human body odour?	Exp Dermatol. 23(5):316-7, 2014
86	Okura R	皮膚科	Expression of AID in malignant melanoma with BRAF(V600E) mutation.	Exp Dermatol. 23(5):347-8, 2014
87	Setoyama A	皮膚科	Regional itching and hyperhidrosis in myeloproliferative disorder with fibrosis: studies on a muscarinic cholinergic receptor M3.	Eur J Dermatol. 24(4):487-8, 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
88	Yoshiki R	皮膚科	IL-23 from Langerhans cells is required for the development of imiquimod-induced psoriasis-like dermatitis by induction of IL-17A-producing $\gamma \delta$ T cells.	J Invest Dermatol. 134(7):1912-21, 2014
89	Ohmori S	皮膚科	Inflammatory response to heparinoid and heparin in a patient with tumor necrosis factor receptor-associated periodic syndrome: the second case with a T61I mutation in the TNFRSF1A gene.	J Dermatol. 41(12):1112-3, 2014
90	Omoto D	皮膚科	Is Wnt5a overexpression sufficient for generating a psoriasis-like phenotype in transgenic mice?	Exp Dermatol. 24(3):183-4, 2015
91	Hamasuna R	泌尿器科	Treatment of acute uncomplicated cystitis with faropenem for 3 days versus 7 days: multicentre, randomized, open-label, controlled trial.	Journal of Antimicrobial Chemotherapy, 69 (6): 1675-80, 2014
92	Hamasuna R	泌尿器科	Obstructive pyelonephritis as a result of urolithiasis in Japan: diagnosis, treatment and prognosis.	Int J Urol. 22(3):294-300, 2015
93	Suzuki H	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Prediction of hearing outcomes by multiple regression analysis in patients with idiopathic sudden sensorineural hearing loss.	Ann Otol Rhinol Laryngol. 123(12):821-5, 2014
94	Takeuchi S	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Relationship between sleep apnea and thyroid function.	Sleep Breath. 19(1):85-9, 2015
95	Aiko Y	産婦人科	Differential levels of amino acid transporters System L and ASCT2, and the mTOR protein in placenta of preeclampsia and IUGR.	BMC Pregnancy Childbirth. 14:181, 2014
96	Tajiri R	産婦人科	Pregnancy after hysteroscopic metroplasty under laparoscopy in a woman with complete septate uterus: a case report.	J UOEH. 37(1):17-22, 2015
97	Aoki T	放射線科	Temporal subtraction method for lung nodule detection on successive thoracic CT soft-copy images.	Radiology. 271(1):255-61, 2014
98	Futatsuya K	放射線科	Systemic lupus erythematosus: prediction by MRI of the subsequent development of brain lesions.	Acad Radiol. 21(5):617-23, 2014
99	Nishimura J	放射線科	Plasma levels of 3-methoxy-4-hydroxyphenylglycol are associated with microstructural changes within the cerebellum in the early stage of first-episode schizophrenia: a longitudinal VBM study.	Neuropsychiatr Dis Treat. 10:2315-23, 2014
100	Yamaguchi S	放射線科	Radiotherapy for thoracic tumors: association between subclinical interstitial lung disease and fatal radiation pneumonitis.	Int J Clin Oncol. 20(1):45-52, 2015
101	Ide S	放射線科	Internal structures of the globus pallidus in patients with Parkinson's disease: evaluation with quantitative susceptibility mapping (QSM).	Eur Radiol. 25(3):710-8, 2015
102	Kawasaki T	麻酔科	Thrombomodulin improved liver injury, coagulopathy, and mortality in an experimental heatstroke model in mice.	Anesth Analg. 118(5):956-63, 2014
103	Horishita T	麻酔科	Neurosteroids allopregnanolone sulfate and pregnanolone sulfate have diverse effect on the α subunit of the neuronal voltage-gated sodium channels Nav1.2, Nav1.6, Nav1.7, and Nav1.8 expressed in xenopus oocytes.	Anesthesiology. 121(3):620-31, 2014
104	Hara K	麻酔科	Effects of intrathecal and intracerebroventricular administration of luteolin in a rat neuropathic pain model.	Pharmacol Biochem Behav. 125:78-84, 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
105	Kawasaki T	麻酔科	Depressed production of beta-defensins from mouse splenic dendritic cells following thermal injury and its influence on susceptibility to infection.	J Anesth. 29(1):78-86, 2015
106	Okura D	麻酔科	Lidocaine preferentially inhibits the function of purinergic P2X7 receptors expressed in Xenopus oocytes.	Anesth Analg. 120(3):597-605, 2015
107	Takahashi Y	麻酔科	Antinociceptive effect of intracerebroventricular administration of glycine transporter-2 inhibitor ALX1393 in rat models of inflammatory and neuropathic pain.	Pharmacol Biochem Behav. 130:46-52, 2015
108	Nakanishi Y	リハビリテーション科	Rapid changes in arousal states of healthy volunteers during robot-assisted gait training: a quantitative time-series electroencephalography study.	J Neuroeng Rehabil. 11:59, 2014
109	Hisaoka M	病理・臨床検査・輸血部	Lipoblast: morphologic features and diagnostic value.	J UOEH. 36(2):115-21, 2014
110	Yamada S	病理・臨床検査・輸血部	Post-mastectomy benign lymphoendothelioma of the skin following chronic lymphedema for breast carcinoma: a teaching case mimicking low-grade angiosarcoma and masquerading as Stewart-Treves syndrome.	Diagn Pathol. 9:197, 2014
111	Yamada S	病理・臨床検査・輸血部	Marine hydroquinone zonarol prevents inflammation and apoptosis in dextran sulfate sodium-induced mice ulcerative colitis.	PLoS One. 9(11):e113509, 2014
112	Yamada S	病理・臨床検査・輸血部	Novel function of histamine signaling in hyperlipidemia-induced atherosclerosis: Histamine H1 receptors protect and H2 receptors accelerate atherosclerosis.	Pathol Int. 65(2):67-80, 2015
113	Yamada S	病理・臨床検査・輸血部	Coincidence between malignant perivascular epithelioid cell tumor arising in the gastric serosa and lung adenocarcinoma.	World J Gastroenterol. 21(4):1349-56, 2015
114	Kamezaki F	救急科	Plasma levels of nitric oxide metabolites are markedly reduced in normotensive men with electrocardiographically determined left ventricular hypertrophy.	Hypertension. 64(3):516-22, 2014
115	Isa Y	集中治療部	A rare case of acquired methemoglobinemia associated with alkaptonuria.	Intern Med. 53(16):1797-800, 2014
116	Harayama N	集中治療部	Comparison of nifekalant and amiodarone for resuscitation of out-of-hospital cardiopulmonary arrest resulting from shock-resistant ventricular fibrillation.	J Anesth. 28(4):587-92, 2014
117	Harayama N	集中治療部	Analysis of G-protein-activated inward rectifying K(+) (GIRK) channel currents upon GABAB receptor activation in rat supraoptic neurons.	Brain Res. 1591:1-13, 2014
118	Miyawaki A	歯科・口腔外科	Intraoperative frozen section histological analysis of resection samples is useful for the control of primary lesions in patients with oral squamous cell carcinoma.	Molecular and Clinical Oncology 3(1): 55-62, 2015

計118件

- (注)
- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
 - 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
 - 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
 - 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会及び倫理委員会専門委員会の審査等に係る手順書 I 基本事項 II 疫学研究及び臨床研究に係る研究者等が遵守すべき事項 1 研究者等が遵守すべき事項 2 学長の責務 3 倫理委員会の運営 4 研究等において予期しない重篤な有害事象及び不具合が発生した場合の対応について III 倫理委員会における倫理審査申請書等の提出及び審査の手順 IV ヒトゲノム・遺伝子解析研究に係る研究者等が遵守すべき事項 V 倫理委員会専門委員会における倫理審査申請書等の提出及び審査の手順 VI 記録の保存	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 産学連携活動に伴い発生する利益相反を適切に管理することを目的とした規定を整備している。 規定では「管理すべき利益相反」状況を判断する基準を指針として示すとともに、産学連携活動を適切に推進するため利益相反委員会を設置し、教職員等に対して利益相反に該当する事例が発生又は発生が予測され、学校法人活動に悪影響を与えられるときは当該事例を委員会に報告することを義務付けている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年11回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・研修の主な内容 平成26年度 1. 臨床研究及び疫学研究に関する倫理講習会（平成26年6月25日、7月15日開催） 研修内容 (1) 世界医師会(WMA)ヘルシンキ宣言(2013年10月改訂)の要点 (2) 臨床研究及び疫学研究に関する倫理指針 (3) 研究倫理指針違反 (4) 研究活動における不正行為防止 (5) 臨床研究実施計画書の作成 2. 人を対象とする研究倫理および研究不正行為防止等に関する講習会 (平成27年3月19日、3月27日開催) 研修内容 (1) 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (2) 研究不正行為の防止に関する本学の対策－新たな規程とガバナンス体制－ (3) 公的研究費の不正使用防止への取り組み	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

産業医科大学病院の診療科等に所属して行う臨床修練及び産業医実務研修

- a 産業医科大学病院における臨床修練（必修）
- b 臨床修練の一部を産業医科大学若松病院、労災病院等における臨床修練又は事業場、労働衛生機関等における産業医修練、或いはその両方の修練にかえることができる。（ただし、期間は別に定める。）（選択）
- c 産業医学基本講座の受講（必修）
- d 産業医学実務講座の受講（必修）

2 研修の実績

研修医の人数	175人
--------	------

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	診療科長	30年	
尾辻 豊	循環器内科、腎臓内科	診療科長	33年	
原田 大	消化管内科、肝胆膵内科	診療科長	27年	
塚田 順一	血液内科	診療科長	30年	
迎 寛	呼吸器内科	診療科長	29年	
足立 弘明	神経内科、心療内科	診療科長	23年	
中村 純	神経・精神科	診療科長	39年	
楠原 浩一	小児科	診療科長	31年	
日暮 愛一郎	消化器・内分泌外科	副診療科長	27年	
田中 文啓	呼吸器・胸部外科	診療科長	28年	
西村 陽介	心臓血管外科	診療科長	28年	
西澤 茂	脳神経外科	診療科長	36年	
酒井 昭典	整形外科	診療科長	28年	
中村 元信	皮膚科	診療科長	23年	
安田 浩	形成外科	診療科長	30年	
藤本 直浩	泌尿器科	診療科長	30年	
近藤 寛之	眼科	診療科長	26年	
鈴木 秀明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	診療科長	29年	
蜂須賀 徹	産婦人科	診療科長	36年	
興梠 征典	放射線科	診療科長	33年	
佐多 竹良	麻酔科	診療科長	38年	
佐伯 寛	リハビリテーション科	診療科長	26年	
久岡 正典	病理診断科	診療科長	26年	
真弓 俊彦	救急科	診療科長	29年	
蒲地 正幸	集中治療部	部長	29年	
尾辻 豊	臨床検査・輸血部	部長	33年	
蜂須賀 徹	総合周産期母子医療センター	センター長	36年	

（注）1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている

診療科については、必ず記載すること。

- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 合同がんサージカルボード ・研修の期間・実施回数 3回（H26. 7. 16、H26. 11. 19、H27. 3. 18） ・研修の参加人数 （H26. 7. 16）103人、（H26. 11. 19）103人、（H27. 3. 18）84人
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 採用時医療安全研修 ・個人情報保護 ・感染防止に関わる病院職員の心得 ・当院の医療安全対策の基本 ・研修の期間・実施回数 平成26年4月～平成27年3月 12回 ・研修の参加人数 ・平成26年4月：237名、5月：7名、6月：16名、7月：11名、8月：5名、9月：11名、10月：19名、11月：8名、12月：11名、1月：12名、2月：11名、3月19名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
《外部新人看護職員研修》 ・研修の主な内容：「看護倫理」「接遇」「バイタルサイン」「フィジカルアセスメント」「看護記録」「医療安全」「感染対策」などの講義、「注射技術・輸液の準備、筋肉注射」「輸血」「ME機器の取り扱い」「BLS」などの演習、「看護のリフレクション」のグループワーク ・研修の期間・実施回数：平成26年7月28日（月）～8月1日（金）40時間 平成26年10月31日（金）4時間 ・研修の参加人数：21名 《認定看護師セミナー》 ・研修の主な内容と期間・参加人数： - 平成26年 9月 6日 糖尿病看護「事例から糖尿病患者さんを理解しよう」 28名 - 平成26年11月22日 がん放射線・化学療法「肺がんの治療を学びませんか？」 35名 - 平成26年11月29日 集中ケア「人工呼吸器管理の基礎」 38名 - 平成27年 1月24日 救急看護「患者急変対応」 73名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	佐多 竹良
管理担当者氏名	医療情報部長 林田 賢史、放射線部長 興梠 征典 看護部長 長野 裕子、薬剤部長 浅原 稔生 病院管理課長 田中 和寿、医事課長 綽 敏彦

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病歴室 薬剤部 放射線部 看護部 各診療科外来 病院管理課	電子カルテ及びそれぞれの部署にてファイル形式において、管理している。 診療録を病院外に持ち出す事は厳禁としております。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課	毎年度ごとに電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。
	高度の医療の提供の実績	病院管理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課	
	高度の医療の研修の実績	病院管理課	
	閲覧実績	病院管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び薬剤部	
	第規一則 号第 1 に掲げる十 体一制第一 の一項保各 の号状及 況及び第 九条の二 十第一項	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
		専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部及び病院管理課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部及び病院管理課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部及び病院管理課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部及び病院管理課	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院管理課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院管理課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院管理課	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院管理課	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院管理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院管理課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院管理課	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院管理課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部長 吉田 剛		
閲覧担当者氏名	病院管理課長 田中和寿、病院管理課課長代理 星野一幸		
閲覧の求めに応じる場所	診療情報等閲覧室		
閲覧の手続の概要			
病院事務部入り口に診療情報等閲覧受付と表示しており、閲覧希望者が来院された際には、病院管理課にて受付を行い、病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧簿に氏名等を記載して頂き診療情報等閲覧室にて閲覧することとなっている。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	④・無
・ 指針の主な内容： 医療安全に関する基本的考え方 医療安全のための委員会に関する基本的事項等 医療安全のための職員研修に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 14 回
・ 活動の主な内容： (医療安全管理委員会 14回) 1) 医療安全対策の検討に関すること。 2) 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること。 3) 医療安全対策並びに医療事故防止のための啓発、教育及び広報に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 37 回
・ 研修の主な内容： 1) 医療安全対策に関すること。 2) 医療事故防止に関すること。 3) 医薬品安全使用に関すること。 4) 医療機器安全使用に関すること。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告などの整備 (④・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) インフォームド・コンセントに関する指針の改訂(何を説明するか、誰が説明するか、記録方法、注意すべき事など内容を見直し、分かりやすく改訂した。) 2) 引き続き全死亡症例について、ICの実施状況等確認をおこなった。 3) IC文書充実のため、外来での患者に対する侵襲を伴う医療行為のアンケート実施、現行のIC文書の使用状況のアンケートを行った。 4) MMカンファレンスを医療安全管理部主導で開催している。 5) 外来、病棟等巡視を行い、環境評価を実施、転倒事故防止のための提言、レクチャーを行った。 6) 各種ワーキンググループの開催(IC、救急カート、DVT、インスリンなど) 7) セーフティーマネージャー連絡会議を毎月開催とし、より連携を深めた。 8) 転倒防止ポスター、患者参画による転倒予防パンフレットの作成。 9) CIS画面上の薬剤希釈に関するアラート機能の追加。 10) レポートシステムにおける分析方法を見直し、より分かりやすいデータの提供を行った。 11) インシデント発生時に直ちに現場確認を行い、状況の把握、原因の分析、指導を行った。 12) 事故調査制度開始に向けて、院内での周知および院内体制の整備 13) その他医療安全対策の推進に関すること	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	④ (6名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	④ (3名) ・ 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	⑦・無
・ 活動の主な内容： 医療安全管理部 専任（ 6 ）名 兼任（ 5 ）名 専従：部長（1名）、医療安全管理者（1名）、看護師（2名）、事務職員（2名） 兼任：医薬品安全管理責任者（1名）、医療機器安全管理者（1名）、 医師（3名） 感染制御部 専任（ 3 ）名 兼任（ 6 ）名 （専任：感染制御担当医師（ 1 名）病院感染対策者（ 1 名）感染制御担当職員（ 1 名） 兼任 ：部長（ 1 名）感染制御担当医師（ 3 名）感染制御担当職員（ 6 名） ※医療安全対策にかかる事務部門：病院事務部病院管理課（4名） ・ 活動の主な内容： 1) 医療事故及び感染防止のための研修・教育の企画・開催 2) 医療事故及び病院感染発生を防止するための情報収集、分析、対策、改善策の検討や立案、フィードバック及び評価を行うこと。 3) 医療事故及び病院感染に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認および指導に関すること。 4) 患者や家族への説明など医療事故および病院感染発生時の対応状況についての確認および指導に関すること。 5) 医療事故及び病院感染の防止対策が適切に実施されていることの確認及び指導に関すること。 6) 医薬品に係る安全管理及び使用に関すること。 7) 医療機器に係る保守点検及び安全使用に関すること。 8) 医療安全対策に係る連絡調整に関すること。 9) 医療安全、病院感染防止に関するマニュアルの作成、周知、評価、見直し。 10) その他院外の医療安全活動など医療安全対策の推進に関すること。	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	⑧・無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	④・無
・ 指針の主な内容：本院では、感染防止対策マニュアルII 病院感染防止に関する事項の中に、院内感染防止対策の基本指針として策定している。 ① 院内感染対策に関する基本的な考え方 ② 病院感染防止委員会の組織に関する基本事項 ③ 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本指針 ④ 感染症の発症状況報告に関する基本指針 ⑤ 院内感染発生時の対応に関する基本指針 ⑥ その他の院内感染防止の推進のために必要な基本方針 その他、感染防止対策マニュアル内の病院感染防止の基本事項1)病院感染対策の骨子(1)標準予防策の遵守(2)感染経路別予防策の遵守(3)産業医科大学病院に関わる教職員の義務などで指針を策定している。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年13回
・ 活動の主な内容： ① 病院感染防止委員会13回（臨時委員会1回含む） ② 医療安全対策の検討及び研究 ③ 病院感染の分析及び再発防止策の検討に関すること。 ④ 病院感染防止のための啓発、教育及び広報に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： ① 救急医療現場からはじめる感染対策 ② 感染防止対策マニュアル改訂のポイントと新興感染症対策（エボラ出血熱など） ③ 今シーズンの当院のインフルエンザ・嘔吐下痢症の発生状況について	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ ④・無 ） JANIS検査部門、手術部位感染サーベイランス、JANISのカテーテル関連感染症サーベイランスへ参加しており、来年度からはJANISのICU部門に参加して、VAP、UTI等のサーベイランスを実施する予定。その結果をセーフティーマネージャー連絡会議、感染制御部Information等で全職員に対して情報共有している。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ① 感染制御部ニュースの発行にて広報 ② セーフティーマネージャー連絡会議を通じて広報 ③ 委員会を通じて広報 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ① 手洗い石鹸自動ポンプの順次設置 ② 病院職員の抗体価検査と予防接種の実施（麻疹、水痘、風疹、ムンプス） ③ 病院感染サーベイランスの実施 ④ 感染性廃棄物分別の徹底 ⑤ 抗菌薬適正使用セミナーの開催 ⑥ 地域連携の充実（カンファレンスなど） ⑦ 体調不良者リストによる職員の感染者の早期発見（インフルエンザ流行期）	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	④・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
研修の主な内容： 1) ハイリスク薬について 2) 麻薬の適正管理と使用 3) インスリン治療のリスクマネジメント 4) 抗がん剤の安全な取り扱い、院内での副作用報告の流れ 5) 薬剤のインシデント・アクシデント事例 6) 医療安全の取り組み～当院における警鐘事例から～	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (④・無) ・ 業務の主な内容： 1) 医薬品の採用 2) 医薬品の購入管理 3) 医薬品の管理 4) 与薬指示・調剤 5) 患者に対する与薬や服薬指導 6) 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い（収集、提供） 7) 他施設との連携	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (④・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 薬剤師による処方せん・注射箋の疑義照会 2) 薬剤師による病棟及び外来の月1回院内ラウンドの実施 3) インスリン・スライディング・スケールの院内標準化 4) 救急カートの標準化 5) ハイリスク薬の定義と適正使用のための指導と啓蒙 6) 医薬品安全使用のための業務手順チェックリストの作成 7) 持参薬コーナー設置、持参薬の一元管理による効率的な鑑別作業の運用 8) 薬歴ファイルに基づく化学療法処方監査の徹底 9) 入院・外来化学療法患者に対する注射用抗がん剤の調製と服薬指導	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 38回
研修の主な内容： 1) 酸素療法 2) 心電図 3) モニタの安全管理 4) 人工呼吸器 5) シリンジポンプの演習 6) 救急処置と A E D 7) 血液浄化 8) 閉鎖式保育器	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (①・無) ・ 保守点検の主な内容： 1) 人工心肺装置及び補助循環装置 2) 人工呼吸器 3) 血液浄化装置 4) 除細動装置 5) 閉鎖式保育器 6) 診療用高エネルギー放射線発生装置 7) 診療用放射線照射装置	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
医療機器に係る情報の収集の整備 (①・無) その他の改善のための方策の主な内容： 1) 医療機器安全管理ワーキングの開催 2) 医療機器に関する情報の収集 3) 収集した医療事故等の情報を医療安全情報により院内に周知	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益社団法人日本医療機能評価機構 平成27年4月25日	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ・住民及び患者が当大学病院を適切に選択できるように以下の方法で情報発信を行っている。 1 病院ホームページを通じて、各診療科が担当する疾患の診断及び治療方法等の紹介、先進医療の紹介、がん診療実績の紹介。 2 がんに対する検診や治療方法などについて、専門医による講演を行う市民公開講座の開催。 3 新聞紙面での手術等の診療実績の掲載。 4 テレビ等への出演による治療方法の説明。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 1 がんセンターにおいて、集学的治療の実施及びがん相談支援等を行い、また、緩和ケアセンターにおいて緩和医療の提供を行っている。 2 総合周産期母子医療センターにおいて、ハイリスク妊娠管理、大量出血、DICなど集学的治療が必要な症例に対して集中的に治療を行っている。 3 血友病センターにおいて、個々の患者様が抱える問題を多面的にとらえ、テーラーメイドの医療を提供するために内科、小児科、整形外科、リハビリテーション科並びに歯科口腔外科の担当医による他科連携での診察を毎月1回第1水曜日に実施している。 4 脳卒中センターにおいて、脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科並びに救急科を含めた診療科が、急性期医療を適切かつ効率的に提供し高度で包括的なチーム医療を行っている。	